外国人観光客

ー モバイル空間統計調査報告 ー

小樽市の外国人観光客数は、昨年夏からの韓国人旅行者の減少に続き、新型ウイルス感染症の拡大による中国人旅行者の減少により、大きく減っていると考えられ、小樽観光の大きな課題となっています。

外国人観光客の動向が注目される中で、当所が行った外国人観光客の入込数を調べた「モバイル空間統計調査」の内容について報告します。

●外国人旅行者増加の背景

小樽市の観光入込客数は、平成11年の973万人をピークに、東日本大震災があった平成23年には604万人まで減少しましたが、その後、V字回復をして平成30年には781万人まで順調に増えています。

これは、平成15年から国が順次始めた外国人観光客のビザ緩和をはじめ、最近では民泊制度の開放など、訪日外国人観光客の誘致政策（インバウンド政策）が大きく影響していると考えられます。

訪日外国人観光客の数は、平成15年に500万人だったものが、平成30年には3,100万人まで6倍に増加し、小樽市内でも運河や堺町通り界隈を中心に多くの外国人観光客でにぎわっています。

●モバイル空間統計

モバイル空間統計※とは、携帯電話の運用データを利用した人口動態統計調査のことで、NTTドコモが提供しているサービスです。同社は、国内の約7,800万台分、訪日外国人については約900万台分の携帯電話のデータを所有しており、携帯電話事業における同社のシェアや国が公表している外国人出入国統計なども活用して、人口動態を推計しています。

当所では、外国人観光客への新たな観光戦略構築のための基礎資料とすることを主な目的として、平成29年度と平成30年度の2ヵ年度にわたってモバイル空間統計調査を実施しました。

市では、ホテルなど宿泊施設からの聞き取りにより、外国人観光客の宿泊人数を国・地域別に公表していますが、来樽する外国人観光客の入込数は把握できていませんでした。

通常、観光客入込数調査では、市内に点在する観光施設などで来場者数をカウントして積み上げ、他の施設でカウントされた重複者や地元の人を除くなどの作業を行ったうえで入込総数を推計しています。

しかし、この方法では、外国人と日本人の区別や国・地域別に把握することは難しいと想像されます。今回、従来のカウント方法とは原理の異なるモバイル空間統計を活用することにより、推計値ではありますが、平成30年度に小樽を訪れた訪日外国人観光客入込総数、宿泊実数、宿泊延数が、下記のとおりだったことがわかりました。（表1）

●結果からわかること

平成30年9月の胆振東部地震の影響を受け、小樽市の平成30年度の観光客入込総数は前年比で20万人減りましたが、今回の調査では、外国人観光客は逆に11万6千人増えていたことがわかりました。これは主に中国、タイ、韓国人観光客の増加によるものでした。

平成30年度の外国人観光客入込総数133万人は、観光客入込総数781万人の17%を占め、日に換算すると約3,700人の外国人観光客が毎日訪れていたことになり、小樽市にとって大きな購買力になっていると考えられます。

国・地域別の分布は（図1）のとおりで、韓国、中国、台湾、香港の東アジアで全体の82%を占め、これにタイやシンガポールなどの東南アジアを加えると、全体の96%の割合になりました。

（単位：人）

訪日外国人	平成29年度	平成30年度	増加数
入込総数	1,216,822	1,332,863	116,041
宿泊実数	192,811	208,164	15,353
宿泊延数	243,994	264,407	20,413

表1

平成30年度　小樽市
外国人観光客の国・地域別の分布

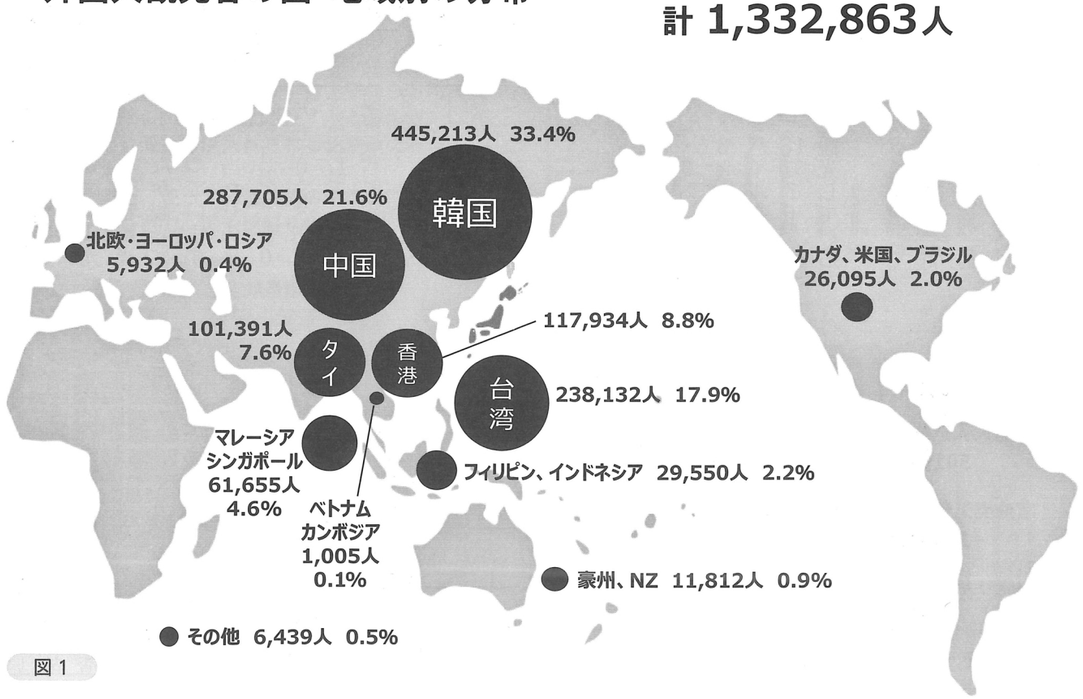

図1